

「遠山郷いい川づくり」 整備計画の目標（基本理念）

『人・自然・文化のハーモニー！ 奏でつづける遠山川』



■言葉のもつ意味■

- 『人』・・・ 地域住民、この地を訪れる人、人の生活を守る
 『自然』・・・ 山里、周辺環境、河川環境、動植物、景観、町並み
 『文化』・・・ 歴史、祭祀、街道、城下町、産業、利水、利用、活動
 『ハーモニー』・ 調和、一致、和合、協和、融合、和声
 『奏でる』・・・ 演奏する、舞をまう、中心的存在、唯一無二
 『つづける』・・・ 将来（未来）にわたって、これからもずっと、変わらず
 （という意味から、防災、重要施設を護る、災害に強い、安全・安心、生活を守りつづける、を含む。）

【 解 説 】

遠山川は、「人（地域住民やこの地を訪れる人）」、「自然（山里、周辺環境、河川環境）」、「文化（歴史、祭祀、街道、城下町）」の「ハーモニー（調和）」を奏でる（舞う）、中心的存在である。

又、唯一無二（二つとない）、過去・現在・未来にわたりそこに存在しつづけるもの。

音楽にたとえ、五線譜＝遠山川、人・自然・文化等＝音符。音楽を奏でるイメージ。

災害等により、音符どれか一つかけてもハーモニーを奏でつづけることはできないという意味を含み、奏でつづけるとは、災害や重要施設を護るなど安全安心の意味を含む。

■言葉に込めたおもい

- ・「人」「自然」「文化」とは、優先度判定で上位となった「自然」、中学生の優先度判定で上位の「文化・川の利用」を含め、地域情報と河川情報の大項目を集約した意味を込めています。ことばの順序としては、中心となる「人」、それを取り巻く「自然」、さらに人と自然から生まれる「文化」としました。
- ・「奏で『つづける』」とは、優先度判定で上位となった「防災・重要施設を護る・災害に強い川・安全、安心」から、将来に渡って人やその生活があり続けるという意味を込めています。

■検討委員会から

これまで地域・河川情報を細かく整理してきましたが、この地域のこれまでの歴史や文化、護るべきものやその考え方などは、整理した内容すべての調和によって成り立ってきたのではないかと強く感じられ、「ハーモニー（調和）、奏で続ける」という言葉には、将来に渡ってこの地域があり続けること、今後の発展や希望などの願いを委員会として込めました。

今回の「遠山郷いい川づくり」をとおして、まちづくりの中心は、川づくりにあるという新しい認識をもって、川が地域の中心的存在であることを改めて地域住民の皆様とともにこの目標に込めてはどうかと考え、目標（基本理念）を決定しました。